

やまとはま ぼれぐら
大和浜の群倉

- 【所在地】大島郡大和村大和浜字瀧の川118番地の1,119番地,120番地の1,121番地の1
【種別】県指定有形文化財（建造物）
【指定年月日】平成16年4月20日



明治中期～後期に建築された5棟の高倉から成る。火災に備えて家屋から離れた水辺にあり、収穫の利便性を高めるため田んぼの近くを選び、更に農作業場所を確保するために、短冊形の敷地割りの奥に高倉を建てていることなどから強い共同体意識のもとに計画的に群倉を形成していることがうかがわれる。

また、^{のきけた}軒桁を^{すみき}隅木で吊る技術は、日本本土にも東南アジアにもなく、台風への備えや、広い面積を確保する工夫から生まれた奄美の独創的な技術である。

ひきやまほうとう
日木山宝塔

- 【所在地】始良市加治木町日木山485番地
【種別】県指定有形文化財（建造物）
【指定年月日】平成16年4月20日



2つ並んだ^{ぎょうかいがん}凝灰岩製の宝塔（同じ構造様式）は、鎌倉期の梵字が刻まれている。

南側の塔は255cmで^{こんごうかいしぶつ}金剛界四仏の梵字が刻まれ、「^{にんじ}仁治参年壬^{みずのえとら}寅九月廿五日」の紀年銘がある。

北側の塔は235cmで^{たいぞうかいしぶつ}胎蔵界四仏の梵字が刻まれ、^{かんげん}翌寛元元年の紀年銘があったといわれているが現在は欠けている。

紀年銘のある宝塔としては県内でも古く、規模も最大で、残存度も良好である。また、中世の豪族である加治木氏との関係をうかがわせる歴史資料である。

仁治参年は1242年